

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693300044		
法人名	社会福祉法人 丹後福祉会		
事業所名	グループホームあみの		
所在地	京都府京丹後市網野町網野390-10		
自己評価作成日	平成27年12月01日	評価結果市町村受理日	平成28年 5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		
所在地	京都市伏見区久我御旅町3-20		
訪問調査日	平成28年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①お一人、お一人のニーズを丁寧にお伺いし、お気持ちに沿った、家庭的な介護サービスを提供している点。②ご家族様、関係機関、事業所間の連携を大切にし、地域資源と融合したケアサービスが提供している点③排泄ケア等、基本的なケア技術を工夫し、また大切にケア提供をしている点</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームあみのの網野町に最初に作られたグループホームで網野町の中心地に位置し、近隣にはスーパーや市民局があり、利便性の高い立地にあります。同じ敷地に4つの施設があり、総称してライフサポート丹後園として総合的かつ専門職によるサービス提供が行われています。事業所独自の理念には「利用者の思いを大切に地域に根付いた支援」が掲げられています。地域との関係は良好で、夏祭りは地域の人が多数参加し地域のイベントとして定着しています。利用者の日常的な地域とのかわりについても敬老会への参加など今までの関係性が継続できるよう支援されています。また、食事を一緒に準備したり、希望に合わせて入浴ができるように配慮するなど一人ひとりに合わせたサービスの提供、家庭的な雰囲気大切にされています。その他、排泄ケアについては特に力を入れており、おむつフイッターの資格を持つスタッフが多数おり、地域の方の相談にも乗る体制も作っています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を振り返り、介護サービス提供の基本にしています。常にご利用者や職員が目にする場に掲示して、確認するようにしています。また、理念について、具体的な行動や内容にすることで、実践することを大切にしています。	職員間で話しあい作った事業所独自の介護理念を事業所内に掲げ、常に意識するようにしている。 ケア会議等で討議するとともに介護サービスの基本として実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流会や、夏祭り、保育所等との交流行事を実施しています。運営推進会議を通じて活動の内容等は随時決めています。	地域の敬老会に参加したり、高齢者大学に通う利用者がおられる。事業所内のスペースを活用し地域の方の絵を常時展示している。また、保育所との交流や夏には敷地を開放し、中学校、施設、地元の店にも協力をしてもらい夏祭りを実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	京丹後市網野町地域で取り組んでいる、「虹の会(認知症の人を介護する家族の会)」に、法人として運営に参加して、グループホームスタッフも参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では両事業所の現状を報告し運営の状況を周知していただいています。又、サービス内容について、意見をいただいた事については即ちに改善するように取り組んでいます。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、家族、地域包括支援センター、民生委員、区長、老人会長、市の担当課等多様なメンバーが参加して活動報告や意見交換を行っている。出された意見をもとに消費者被害にかかる勉強会を開催した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議には必ず地域包括支援センターに参加をもらい、運営状況、ケア改善の取り組みについて報告し、意見を頂いている。	運営推進会議や地域ケア会議を通じて日頃の取り組みの報告、意見交換を行っており、顔の見える関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。毎月、身体拘束防止委員会を開催し、事例やプライバシー侵害に関わる事件等を通じて学習したり、マニュアルに全職員が目を通して、周知を図っている。但し、夜間は防犯の意味もあり、玄関の施錠をしている。	事業所において身体拘束委員会を立ち上げ、研修会等を開催している。新聞等の情報をコピーし随時共有を図っている。玄関は、夜間以外は施錠していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を通じて全職員が学習する機会を作っている。法人として、毎年、京都府の実施する研修会に参加して学習している。資料等は全職員が目を通すこととしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	基礎知識としては周知しているが、学ぶ機会としては実施はしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面の内容について、文面に沿って説明し、丁寧な説明をするように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議への家族代表の参加や、日頃からの御家族との関係づくりを大切にしています。	運営推進会議や年1回の家族会、面会の時などを活用して、担当者と家族のコミュニケーションを図り、話しやすい関係づくりに努めている。また、グループホーム限定「あみのだより」にひとこと言葉を添えて送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会義での積極的に個々が発言できるようにしている。年1回は管理職と個々の職員が意見交換のできるよう、個人面談を実施している。	毎月のケア会議を通じて、意見や提案を出す機会を設けている。また、管理者が日々現場に入っており、日常的にコミュニケーションを図るようにしている。部長面談を年2回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の確認には随時代表者、現場責任者の意見交換の下、状況把握に努めている。法人が年1回労働環境改善に向けた無記名アンケートを実施し、運営に反映するようになっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として、自主研修を含めて全職員に研修の機会が与えられている。各委員会活動の一部として施設内研修もトランスファーに関する事に等についても実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京丹後市市内の7か所のグループホームで、現場スタッフが、事業所間で、順番に各施設に集まり、介護職員同士が意見交流を行う会を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人としっかりと向き合い、人と人との深いかわりを大切にすることで、傾聴することを大切にしている。また、利用者目線での介護を徹底しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に入所の段階で、食事について、排泄ケアについて等、具体的にご希望をお伺いした上で、可能なかぎり介護の内容に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入所者受け入れの場合には、環境に馴染んでいただくことを重視した対応をしている。必要に応じて、口腔ケアに関わる医療連携等について、調整している。課題のある状況に注意して対応して、早期対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事に目を向け、可能なかぎり主体的に生活行為ができるように、環境調整をしています。また、御利用者との意見交換を、日常的にもつことで日々の取り組みに活かしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療との関わりや方針、ご本人の情緒不安定のある場面等、ご本人の生活のしづらさのある場面では、殆どの場面でご家族に相談し一緒に支援していくことを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に通う、行きつけの店を利用する等、親族、同級生、旧知の方等馴染みの方の訪問を受け入れ必要な支援をおこなっている。また、地域の敬老会に参加したり、高齢者大学に通うことを続けておられる人もいます。	入所される前に通われていた美容院や行きつけの店の利用など今までの関係性が継続できる支援をしている。また、高齢者大学や唱歌の会などこれまで続けて来られた活動や参加の機会についても大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間で、関係に課題のある時はスタッフミーティング等で意見交換して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等により退園となった場合であっても、情報提供や、円滑なサービス移行、必要に応じて相談支援をおこなっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	具体的で聞き取れ判断できる内容については、積極的に確認している。ご本人の嗜好や、大切にしておられる習慣等があれば確認し、暮らしの中に取り入れている。	日々のかかわりの中で声をかけ思いや意向の把握に努めている。食べたいものをその日に相談しながら決めたり、お墓参りの支援を実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	意思疎通のできる方は本人に尋ねたり、家族から聞き取ろうとすることで情報確認し、整理しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を詳細にとり、介護上必要な観察をし、連携を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議をもち、モニタリングの他に検討が必要な場合は随時、ミーティングを重ねて評価をもち改善を図っている。	本人、家族の意見が反映できるようにサービス担当者会議やミーティングを必要に応じて行っている。定期的にモニタリング、アセスメントを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、連絡帳、排泄、水分、外出記録で職員は情報共有を行い適切なケア実践をこころがけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人が現状に今必要な援助ができるように、家族と相談を行う。医療面での問題については家族・主治医との連携を持ち必要な専門の診断を受けられるように調整を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材や日用品の購入のために、地域の商店に職員が付き添い出かけたり、散歩したり、行きつけの理髪店に出かける等地域の関係性やつながりを大切にした介護を意識しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地理的な問題等特別な事情が無い場合は、入居前のかかりつけ医を継続して受診して頂いています。現在2名の方が往診の対応をかかりつけ医から受けています。	入居前からのかかりつけ医のところへスタッフ、家族が付き添って受診されている。眼科、耳鼻科などの通院もスタッフが付き添っている。受診結果については、家族、スタッフ間で情報を共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理を看護師中心に行っている。介護職、看護師の連携は、パソコン上での情報伝達も行い維持できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は入院直後から、小まめに病院連携室等と情報共有をもっています。リハビリの目標設定や、退院に向けたカンファレンスは積極的に開催の申し入れを病院側におこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた支援はグループホームの機能を説明し、医療行為ができなため、体制の整わない状況では支援が難しい旨を伝えています。	事業所でできること及び胃瘻、たんの吸引などの医療行為が出来ないことを早い段階で家族に説明している。医療行為が必要になったときは家族と相談の上、可能な限り事業所で暮らすことや入院することなどを選ぶようにしている。	グループホームに入居された方の多くはできれば最期まで慣れたこの家で…と望まれます。医療体制充実の難しさを何とか乗り越えて、看取ができるようになればと期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人の段階で部内の救急法の講習会の参加をし、知識として対応方法を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回昼夜を想定し、消防署の立ち合いの下実施しています。通報や初期消火、避難誘導等の訓練を行い、地震時の対応も含めて検討しています。京丹後市が行う防災訓練には、利用者、職員も参加し、ホームでの訓練には運営推進会議メンバーの参加も得て協力体制が築けるようにしています。	火災、地震、津波なども視野に入れて、市の消防訓練に参加して避難誘導の訓練をしている。事業所での訓練に運営推進会議のメンバーも参加され地域とのつながりを大事にされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線の高さを合わせて会話をする、言葉の抑揚に気を配る、また人権に関する学習会を定期的実施する等指導徹底している。	理念の第一に「ご利用者の尊厳を守ります」と唱ってケアにあたっており、部屋のドアを閉めたくない利用者にはのれんで中が見えないようにする等工夫をされている。2か月に1回、市のグループホーム6事業者で事例をもとに研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に向き合い、想いを汲み取り自己決定ができるような支援を心がけている。一つ一つの事柄について自己決定をしていただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを確認し、想いを汲み取り、自己決定できるように支援している。ただし、食事時間などは施設のルールに基づいているため、ご本人の様子によって、個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力をいただきながら、おしゃれのできる支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	節目の行事食や、誕生日のメニューと一緒に考えたり、一人一人のお身体の様子に合わせた食事量や形態を考えている。	グループホーム独自で食事を作っている。スタッフも同席して一緒に食事をしている。手伝うことができる利用者は準備や後片付けを手伝っている。できることをしてもらうことや役割を担ってもらう事も大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し必要量の提供に努めている。お一人お一人の食事量、食事形態、その日の体調に合わせて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声掛けをしている。自力で行うことが出来ない方は、介助を行う。歯科医との関係を大切にして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人に適したケア用品を使用することや、定時の排泄の声掛け誘導を行う。ケア会議等で個別にオムツやパット類を含めて検討をもった上で、使用をお勧めしている	排泄ケアについては特に力を入れており、おむつフイッターの資格を持つスタッフが多数いる。デイの入り口には多種多様な排泄用品を取りそろえた棚があり、その人に一番適した排泄ケアになるよう努力され、また、地域の方の相談にも乗る体制を作っている。	事業所のPRできる場所であり、場所や広報の仕方等の見直しをされてはどうか。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分提供や、日中の軽い運動をとりいれている。排便の状況は常に記録した上で、緩下剤の使用を主治医の指示の中で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるかぎり、ご本人が希望する時に入浴していただいたり、午後入浴をおすすめしている。週2回以上を目安に入浴していただいています。	一人ひとりの希望にあわせ入浴ができるようにしている。勤務体制に応じて夜入浴もできる。スタッフは全員女性で、入居者もほとんど女性(8/9)なのでほぼ希望通り同性介助ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人、睡眠のリズムがあり、個々の方に合わせて誘導させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を常に確認できる場所に置き、職員全員が常に把握できるようにしている。看護師の指示指導を常に得るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や力を活かしていただくように、個別に計画し実施している。家事や、日常の細かな行為についても、積極的に活動していただくように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外の活動をする機会が少ないため、職員間で話し合いを持ちながら支援をすすめている	日常的に買い物や回覧板回しなどの用事で外出の機会を作ったり、本人の希望により、元の地区の敬老会への参加や高齢者大学の唱グループに同行し出かけることができるように支援している。民宿にご飯を食べに行くイベントなども企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者のご希望、お力によって金銭の管理をして頂いています。9名中お一人の方が自己管理をされ、その他8名は、管理が難しく、預かり支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけたり、家族から電話を取り次ぐ支援を行う。家族からの手紙は状態に応じて職員が読み伝える。ケアとして家族との調整を積極的にもち、関係性を大切にしたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除をしっかりと行い、清潔な住環境を心がけている。お一人お一人が活動しやすい環境としていただけるように、家具をはじめ日用品の選定には気を配っている。	利用者の年代に合うような古い家具調度などを使って、温かい家庭的な雰囲気を出している。各部屋には加湿器が設置されている。玄関入り口には絵や写真などボランティアの作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが狭いが、その分各お部屋や屋外での活動、声掛けを工夫することで対応している。ご本人なりの過ごし方、周囲との関係性を大切にしたいケアを行いたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当職員が中心となり、ご本人やご家族と相談しながら共同でお部屋の整備に取り組んでいただいている。入居時には、ご本人が使いやすい生活用品を持ち込んでいただけるようにする。	一人ひとりの部屋にその人のなじみのものなどが置かれていたり、壁面にそれぞれの人なりの飾り付けがされていたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の表札、トイレの表示で理解ができる。御利用者が過ごす動線は短く、工夫次第でご本人なりの生活がおくっていただける。		